



交通事故による死傷者数。果たして「交通戦争」は終息に向かうのか？  
出所：国家統計局



ブリヂストンは上海F1に製品供給する唯一のタイヤメーカーとして、今回のモーターショーでは「安全、技術」をアピール、存在感を示した。



車と人でごった返す交差点(上海市内)。交通速の向上も課題

# 「ひと・車・自然」の「和諧」を目指して カギをにぎる「環保・省エネ・安全」

行動空間の拡大と時間効率の向上に寄与するはずのモータリゼーションにも負の側面がある。交通事故など「安全」に対する脅威もそのひとつだ。中国の交通事故件数、死傷者、経済損失は二〇〇二年以降減少の途をたどっているが、世界的に見ても「交通事故大国」の地位にあることには変わりない。

## 小型車奨励策のもとで

今号の特集では、「マイカー時代」到来前夜にある中国の自動車市場を、小型車およびエコカーに関わる話題に重点を置きながら見てきた。

消費税面における小型車優遇策、排ガス規制、(高架道路などへの)小型車の乗り入れ規制の緩和などの政策の影響を受

けて、外資メーカーも続々と市場参入を始めている。しかし、小型エコカーの発展に有利な環境づくりがなされているといっても、中・大型車になびこうとする消費者心理、法規政策施行上の障害等を鑑みると、小型エコ車が爆発的に増大していくとは限らない。

「ひと・車・自然」……。モータリゼーションが進行するなかで、現在の車社会の矛盾をいかに調和させていくか、今回の上海モーターショーが提起したテーマは大きい。

## 交通事故の脅威大きく

「和諧社会」実現のうえで

で、「省エネ」「環境保護」とならんでも一つキーワードとなるのが「安全」であろう。今後、中国が都市部の渋滞、大気汚染を克服し、交通事故という脅威をいかに取り除いていくかに注目が集まる。

大阪万博が開催された一九七〇年に「二四時間死者数」がピークに達した日本に対して、モータリゼーションが加速化し

た二〇〇二年以降は逆に死亡者は減少の途をたどるなど、中国の交通安全事情は一見、改善されたかのように見える。しかし、中国の交通事故による死亡者数は世界の二六%を占めるなど、依然として大きな脅威であることに変わりない。ちなみに自動車一万台あたりの死亡者数は日本が〇・七七人に対して、中国は六・六人にもものぼるといふ(四月二十九日・新華網)。

## 世界一の「自動車王国」に向けて

人は交通手段を持つことで行動空間を広げ、時間効率を高めてきた。しかし、自分の足に頼るしか移動ができなかった時代には想定もしなかった生命の危機、脅威に直面したのは、文明が抱える矛盾ともいえる。

かつて「自転車王国」と称された中国。では、今後、「和諧社会」によさわしい世界一の「自動車王国」を目指すにはどうすべきか。中国の挑戦はまだ始まったばかりだ。

### 鳴謝!

邱奇峰氏(弁護士)、沈偉良氏(コンサルタント)、崔明氏(カメラマン)、松浦克憲氏、王晏清氏、岡田淳子氏、倪白涛氏、そのほか特集制作に御協力を頂きました皆さまに感謝申し上げます。

(ウエネバーチャイナ編集部一同)